

ふれあひ

発行日 ● 平成22年9月

発行者 ● JA岐阜厚生連 中濃厚生病院 広報委員会

中濃厚生病院だより

No. 63



中濃厚生病院の理念

みんなの安心、みんなの信頼、みんなの希望
私たちは「安心」「信頼」「希望」のある医療をめざします。

患者さんに「安心」を

いかなるときも差別をなくし、人権とプライバシーを尊重します。
十分な説明と納得のいく医療サービスを心がけます。
快適な環境をととのえ、こころを尽くしてお世話します。

地域社会に「信頼」を

さまざまな機関との連携をすすめ、開かれた病院をめざします。
救急・予防・リハビリテーションまで地域に必要な医療を提供します。
常に新しい知識と技術の集積につとめ、高度医療に取り組みます。

あしたに「希望」を

医療と福祉の実践をとおして生きがいにみちた生活を支援します。
利用者と職員の希望をはぐくむ職場づくりをすすめます。
和を大切にし一丸となって地域医療の発展に努めます。

特集：中濃厚生病院新築移転、
救命救急センター開設10周年



JA岐阜厚生連

中濃厚生病院

中濃厚生病院新築移転、 救命救急センター開設10周年記念に寄せて



中濃厚生病院
院長 田中 孜

本院は昭和23年創立後、中濃地域の中核病院としての役割を果たしてまいりましたが、平成7年5月に救命救急センター開設が決定され、それに伴い従来の緑町の病院では敷地面積の不足、病院の老朽化などの問題点が明らかになり、現在地に新築移転することになりました。平成10年7月新病院起工式、平成11年3月救命救急センター起工式が催され、平成12年5月竣工式が執り行なわれました。新病院は敷地面積52,793㎡、本館建築面積10,381㎡、383床です。

新病院への移転に当たり、何度も打ち合わせとシミュレーションを行い、7月28日から31日までの4日間をかけて患者さんの搬送など安全に行われました。また移転と同時に始められましたオーダリングシステムも無事稼動し8月1日の開院を迎えることが出来ました。

同時に開設した救命救急センターですが、岐阜県下5番目ということもあり開設に至る経緯は難航しましたが、岐阜県厚生連はもとより行政、医師会、岐阜大学のご協力により無事開設の運びとなりました。開設以降は、胸部外科がない、小児科医の不足など課題は多くありますが、充実段階「A」評価を毎年受け、今日に至っています。

その後本院は、「医療の質の向上」「職員教育の充実」「医療経営の安定」を基本方針に、以下のようにハード面の整備からソフト面の充実を図ってきました。

平成13年に「中濃病院年報」を発刊、14年に「地域医療連携室」開設、臓器移植提供施設、15年に僻地医療拠点病院指定、日本医療機能評価機構認定、臨床研修病院指定、17年に病院名を「中濃厚生病院」に改称、18年に院外処方実施、D P C対象病院、20年に岐阜県肝炎診療専門医療機関指定、第二次周産期医療指定機関指定、初期夜間急病診療支援室設置、7対1入院基本料算定、放射線治療棟竣工、外来化学療法開始、21年に高エネルギー放射線治療開始、D M A T（災害医療派遣チーム）編成、64列M S C T導入、駐車場造成工事着工、22年に駐車場造成工事完成（280台）。

特に臨床研修病院に指定後は毎年平均6名の初期研修医が就職し、現在13名の初期研修医と8名の後期研修医が日夜研鑽を積んでいます。

また平成12年には本院は映画「サトラレ」の舞台になり、鈴木京香さんも来院され、更に19年には竹野内豊、水野美紀主演の「あの空をおぼえている」のロケも行われました。

経営面ですが、岐阜県、関市を始め中濃地域の各自治体、岐阜大学、名古屋大学、名古屋市立大学などの関連大学、地元の武儀医師会、JAめぐみの、岐阜県厚生連のご協力並びに当院職員の努力により順調に経緯しており、改めて御礼申し上げます。

最後になりますが、今後は地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院を目指し、また脳卒中センター、循環器呼吸器センター、消化器病センターなどの設立、胸部外科、口腔外科、ペインクリニックなどの新設も視野に入れて、病床数500床、常勤医師100名（現在76名）を目標に職員一同精進して参りますので、関係各位の皆様方には引き続き御指導、御鞭撻宜しくお願い申し上げます。記念の言葉にさせていただきます。

10 年 の 歩 み

救命救急センターは、開設当初より、原則として、救急患者さんの受け入れを断らないことと救急救命士と一緒に救急診療を行うことを理念として運営してまいりました。中濃地域では、循環器内科、脳神経外科、整形外科などの専門医が少ないため、他の病院から急性心筋梗塞、くも膜下出血、脳出血、脳梗塞などの脳血管疾患の救急患者さんが紹介され、多くの方々を救命し、また多くの大腿骨骨折や腰椎圧迫骨折などの救急患者さんを治療してまいりました。さらに、当センターは、中濃地域の住民の方々、周辺の2病院、武儀医師会の先生方、行政の方々のご協力により、救急車の受け入れ応需率は約96～98%と全国の平均より高く対応しております。今後も中濃地域の住民の方々へ24時間365日の高度な救急医療を提供してまいりますので、皆さま方のご理解とご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

副院長兼救命救急センター長 林 勝知



さる、平成22年7月30日に関観光ホテルにおいて、新築移転・救命救急センター設立10周年記念式典が開催されました。

当日は、尾藤関市長、竹腰関保健所長、早川医師会長、岡田JAめぐみの組合長をお招きし、病院長、救命救急センター長による記念講演が行われました。

また、尾藤関市長に対し、上松JA岐阜厚生連経営管理委員会会長より、開設当時県議会議員として、現在関市長として病院事業運営に多大な支援と協力を賜ったことに敬意を表し、感謝状が贈られました。記念品として自動血圧計を贈呈しました。

自動血圧計は市民のみなさんが自由に利用できるよう関市役所に設置されました。

